




研究者名※	小野寺 研太 ONODERA KENTA	学位※	博士(学術)
所属※	家政学部 家政経済学科	職名※	准教授
連絡先	onoderak@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/ktondr		
研究分野※	総合人文社会(ジェンダー)、人文学(哲学)、社会科学(政治学)		
研究キーワード※	ジェンダー(思想・運動・歴史)、社会思想史、政治思想史		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴	第5回吉野作造研究賞・最優秀賞(2017年)		

研究領域	ジェンダー(思想・運動・歴史) 社会思想史	
研究テーマ※	世紀転換期アメリカにおけるフェミニズムの思想史	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 この研究は、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのアメリカで展開された、フェミニズムに関わる思想や運動を歴史的に読み解くことで、近代的なジェンダー観がいかに関与されていき、今の私たちに連なっているのかを明らかにしようとするものです。</p> <p>この研究の背景にあるのは、ここ数十年で進んできた、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる世界的な問い直し動きであり、さらにその過程で見出されてきたケア実践の評価に関わる問題です。例えば、家事や育児をめぐる性別分業ひとつとっても、その偏りが多くの女性に不利な状況をもたらしています。そうした現在のあり方を根本的に変えていくには、制度や慣習、人びとの何気ない言動にまで深く根付いた価値規範を批判的に捉え、制度や考え方を見直していく必要があります。いまの私たちが、なぜこのようであるのかをきちんと振り返るために、この研究は、ジェンダーに関わる歴史の一側面に注目します。</p> <p>この研究が主な検討対象とするのは、ジェーン・アダムズをはじめとするプラグマティスト・フェミニズムです。さらにここに関わる文脈として、当時の進化思想やプラグマティズムに関する議論があります。</p> <p>【応用例、研究の展望】 この研究は、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる政治理論、社会正義 social justiceを達成するための民主主義の発展に寄与することを目指しています。特に、様々なケア実践の担い方、責任の分有方法をめぐる歴史上の様々な取り組みを検討することは、すべての人が善く生きるためのライフスタイルや社会制度、都市のあり方などの再発見につながることを期待できます。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> 小野寺研太「社会批判とジェンダー」『社会思想史研究』45号, pp.31-50, 2021年 小野寺研太「フェミニスト社会科学の科学性と政治性」『ジェンダー研究』26号, pp49-67, 2023年 	
共同研究・外部機関との連携への期待		